

大豆近況 VOL.160

団体会員
一般会員 各位
賛助会員
協賛企業

関係部署にご回覧ください。

令和4年3月7日
一般財団法人 全国豆腐連合会
会長 東田 和久
相談役 郷 和平

「大豆近況」をお届け致します。是非、ご活用下さい。

○北米産大豆

米国農務省が2月9日に発表した、2021/2022年度の米国大豆需給予測によりますと、生産量は1億2,071万トンと前月から据え置かれていましたが、国内搾油量の増加を受け総需要量が増加し、期末在庫は884万トン(在庫率7.4%)に下方修正されました。また、世界の大豆生産予想は、乾燥した天候の影響で南米のブラジル、アルゼンチン、パラグアイで減少し、前回比2.3%減の3億6,386万トンに下方修正されました。これを受けて世界の大豆の期末在庫は2.5%減の9,283万トンに下方修正されております。

一方、同省が24日に発表した2022年産米国大豆の作付け意向面積は、8,800万エーカーと事前の予想は下回ったものの前年の8,720万エーカーを上回る水準となっております。

なお、2021年産大豆の在庫状況ですが、依然として大幅な遅れが生じており一向に改善の兆しが見られない状況です。船の予約にも異常に時間を要し、せっかく取得できた本船予約もコンテナ不足や船会社による一方的なキャンセルによりご破算になることの方が多いためです。既に国内在庫がかなり減少し始めている中、新穀への切替えが本格化する今後の在庫ひっ迫が現実味を帯びております。

2月のシカゴ相場は、期近3月限が\$14.90/ブッシェル付近から始まりました。乾燥天候により南米の生産高が減少するとの供給不安から、前月からの上昇基調を引き継ぎ、序盤から価格水準を大きく切り上げる展開となりました。実際に収穫が始まったブラジルでは単収が低いとの報告もあり、相場上昇に拍車をかけました。中盤にはウクライナ情勢をめぐる地政学リスクの再燃から貴金属や原油が高騰し、大豆や大豆油も連動して買われる展開となりました。24日には南米産大豆の供給不安懸念に加えて、ウクライナ情勢の激化から9年半振りの高値である\$17.00をあっさりとお抜け、一時は取引中のストップ高である\$17.65を付ける場面もありました。史上最高値である\$17.89を目指す勢いで急騰したものの、翌日の25日には高値警戒感と利益確定のためのファンドの売りが集中して大幅に反落しました。2月25日現在、期近3月限が\$15.90/ブッシェル

エル付近で推移しております。反落したとは言え、月初から1ドルもの急騰となっており、中国による連日の買付け継続やウクライナ情勢の更なる激化懸念もあり、今後の相場乱高下には注意が必要です。

2月の円相場は、1ドル=115円付近から始まりました。序盤は米国の急速な金融引き締めが景気の減速を招くとの見方からドル安優勢で始まりましたが、雇用統計の予想を上回る伸びを受けて米長期金利が上昇しドルが買い戻される展開となりました。その後もインフレ懸念から金利の先高感が根強くドル高優勢での推移となりました。中盤以降は、ウクライナ情勢の緊迫化を背景に低リスク通貨とされる円への買いが入り易くなり、徐々に円高傾向で推移しました。しかし、FRBによる早期金融引き締め観測と米長期金利の高まりから一段の円高水準には至らず、2月28日現在、1ドル=115.50円付近で推移しております。今後もウクライナ情勢次第で大きく変動する可能性が高く、シカゴ相場同様に注意が必要です。

○国産大豆

令和3年産国産大豆の第3回入札取引が2月16日に実施され、全国で約5,990トンが上場され、落札率は77.85%でした。北海道産の納豆銘柄の大半が不落のため、一見すると落札率が下がってきているようにも見えますが、とよまさり銘柄については依然として9割程が落札されており、府県産大豆についても東北の一部銘柄を除いてほぼ全量が落札されている状況で、落札率は依然として高水準で推移しております。平均落札価格は、普通大豆:¥10,050/60kg(前月比+¥63)、特定加工用:¥9,147/60kg(前月比△¥303)で、全体の落札価格は¥9,820/60kg(前月比△¥18)の結果となりました。特定の人気銘柄や人気産地のロットには、札が集まり高値で落札されているようですが、全体的には前月並みの価格となっております。次回は3月16日に約6,800トンの入札が予定されており、相場の一段の落ち着きに期待したいところです。

以上